

令和 6 年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	岡山大学	タイプ	A
事 業 名	生殖環境科学を通して Well-being に寄与する日欧先駆人材育成プログラム		
海 外 の 相 手 大 学	ムルシア大学（スペイン）、トゥールーズ第 3 ポール・サバティエ大学（フランス）、ソルボンヌ大学（フランス）		

〔評価コメント〕

本プログラム計画は、貴学が所有する生殖補助医療技術教育研究センターや環境理工学部を活用し、生殖環境科学の分野における次世代先駆人材を養成するための教育研究ネットワークを欧州の大学と形成する意欲的な取組である。

その展開に当たっては、特色・強みの異なる複数の連携大学を巻き込み、分野横断的なカリキュラムを構築するという難易度の高い計画となっており、高く評価できる。養成する人材像・外国語力基準・学生の受入・派遣計画等の目標設定と実現に向けた取組が明確である点、海外インターンシップや教育支援体制が充実している点、オンデマンド型の JV-Campus を活用するだけでなく COIL 授業に資するコンテンツの提供を目指している点も評価できる。外部評価の体制も整備されており、国際化プログラムの発展へ向けて大学としての環境整備体制が整っている。

一方で、既に教育交流実績を積み上げてきたムルシア大学との協働が中心となっており、トゥールーズ第 3 ポール・サバティエ大学とソルボンヌ大学をパートナーに加えることで生まれる付加価値や本プログラムへ影響については明確ではない。また、複数研究科が対象のプログラムが集まったように見えて、農・獣医・医系、理・工系の各研究科の関わりや、共通科目などの仕組みも不明確なので、プログラムとしての今後の横展開に係る記載が不十分であるように見受けられる。さらに、補助期間終了後のプログラム展開や、ダブル・ディグリー・プログラムなどの共同学位構築への具体的な構想が曖昧であり、更なる検討が望まれる。

最後に、今回選定された貴学においては、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。